15.

616.8

腦 炎 性 精 神 異 常 ノ 觀 察

岡山醫科大學精神病學教室（主任林教授）

醫學士 竹 内 道 眞

[昭和7年7月8日受稿]

*Aus der Psychiatrischen Klinik der Okayama Medizinischen Fakultät.**(Vorstand: Prof. Dr. M. Hayashi).*

Einige Bemerkungen über die encephalitische Geistesstörung.

Von

Mitizane Takeuti.

Eingegangen am 8. Juli 1932.

Verf. gibt die Untersuchungsprotokolle zweier wegen der Mordtat begutachteten Fälle der encephalitischen Geistesstörung wieder. Daraus sind die folgenden Punkte besonders hervorzuheben.

1. Das psychische Bild dieser zwei Fälle lässt sich, wie die üblichen öfters uns zur Beobachtung kommenden Fälle, in die Reihe der Amentia bringen.

2. Die Mordtaten wurden auf Grund amentioser Geistesstörung unter Mitwirkung endogener Momente verübt. Beim ersten Fall, wobei es sich um eine akute Form handelte, spielten die exogenen psychischen Störungen die Hauptrolle, während der exogene paranoische Charakterzug nur hinter den Kulissen lag. Der zweite Fall verlief eher chronisch. Die amentiose Nuance war somit eine schwächere, sein konstitutionell depressives Zeichen liess sich dagegen bei der Tat deutlich erkennen.

3. Die Zurechnungsfähigkeit des ersteren, bei dem die menschliche Aktivität der Psyche stark beschränkt ist, muss stärker vermindert anzusehen sein, als der letztere, bei dem der Persönlichkeitsaufbau noch verhältnismässig gut erhalten ist.

(Kurze Inhaltsangabe).

精神證狀ヲ主徴トスル腦炎ノ特殊定型ハ、林教授ノ着眼以來、我等ニトツテハ最早ヤシカク稀有ナ疾患デナクナツテシマツタ。ガ、私ハ茲ニ敢テ近頃私が鑑定ナル事由ノ下ニ經驗シタ 2 例ノ記述ヲ試ミヨウト思フ。

私ノコノ論文ノ狙ヒドコロハ、腦炎性精神異常ノ背景カラ 犯行ガ醸シ出サルルニ至ツタ徑路ヲ、具體的事例ニヨツテ分析シヨウトスルノデアル。從ツテ病型ソノモノノ證狀、認識、Nosologische Stellung 乃至ハ流行性腦炎トノ異同問題等ニ關スル一般の敘述ヲ棄テタ。カクノ如キ綜括的觀察ハイヅレ近キ將來ニ於テ、教室カラ公ニセラルルデアラウ。私ハ則チココデハ、態ト意識シテ、私ガ林教授ノ手法ニ倣ツテ記シタ、一種ノ Strukturanalyse トモ云フベキ鑑定書ノ章句ヲ多クハ生ノママデ引用、轉寫スルコトニシタ。私ノ目標ハ蓋シ個人的色彩ヲ重シトスル精神病學上ノ興味ニ繫ツテキルカラデアル。

第 1 例 被鑑定人 S. F.

生活史

マヅ被鑑定人ノ生ヒ立チ、平生ヲ詳カニシテ置キタイ。

1. 被鑑定人ハ K 縣 A 郡 S 町 3629 番地 T. F. ノ 5 男トシテ明治 32 年 8 月 25 日ニ生レタ。兩親ハ既ニナイ。

2. 閱歷。成績ノ劣等ダツタ小學校時代ヲ高等小學 1 年ノ中途デ打切ツタ。14 歳ノ時ノコトデアル。其ノ後 S 町附近ノ鹽田デ暫ク働イテキタガ、23 歳カラ兄 D ガ請負經營スル某鹽田會社ノ鹽田ニ勤メ、ソノ賃銀デ最近マデ生活シテ來タ。28 歳デ現在ノ妻 N ト結婚シ、同時ニ分家シテ 1 戸ヲ構ヘタ。豫審廷ニ於ケル彼ノ陳述ニヨレバ、同人ハ月收 33 圓、妻ハ 8 ノ某鹽田ニ稼ギニ行キ、日當 60 錢位、コレデ本年 4 歳ニナル長女 T ト 3 人一家ノ暮シヲ立テキル。貯金ガ 7, 8 百圓アルトノコトダカラ、富裕トハイヘナイダラウガ、周圍ノ狀況ニ比シテ必ズシモ窮迫ノ域ニアモノデハナイ。

3. 性質。證人某ガ豫審廷デノ證言ニ從ヘバ、被鑑定人ハ幼時カラゴク内氣デ喧嘩口論ヲシタナドトイフコトハマダナイサウデアル。昭和 7 年 4 月 16 日彼自身モ亦私ニ對シ、「小學校ノ時分ハ氣ガ小サウ

テツライ目ヲシヨツタ」ト語ツタ。長ジテモコノ性質ハ毫モ變ラヌ。コレハ妻 N. 兄 D. M. O. 及ビ K. K. 等ガ皆一致證言シテキルトコロデアル。シカシ眞ニ溫良一方カト云フニ、ソレハ必ズシモサウデハナイラシイ。衝ムトコロガナイノデハナイ。衝ムデモ敢ヘテ發スルコトガ出來ナイト見タ方ガ寧ロ妥當デアラウ。コノ點ハ M 豫審判事ヘノ被鑑定人ノ陳述カラモ容易ニ推定サレルト思フ。表面ニテハトモカク、内面デハシバシバ物事ニ激シ、或ハ怒リ或ハ怨ムトイフ一種ノ氣質傾向ガ確カニアルノデアル。

4. 遺傳及ビ疾病。K. K. 兄 D. 妻 N. ノ豫審廷ニ於ケル證言ニヨレバ、被鑑定人ノ兄 M. F. ハ高度ノ神經衰弱ニ罹リ自殺シテ果テタトイフ。恐ラクハ何カノ精神病ヲ患ヒテキタノデアラウ。母系ノ祖母及ビ父ノ妹即チ被鑑定人ノ叔母ニ當ル人モ亦精神病者ダツタラシイ。彼ノ家系ガカク濃厚ナ精神病の遺傳素因ヲ保有スルコトハ、マヅ第 1 ニ吾人ノ注意ヲ惹ク。

カウイフ血ヲ享ケタ彼ハ幼年、少年、青年時ヲ通ジ辛ニ健康ナ方デ別ニ著患ハナカツタ。タダ今カラ約 10 年程前ニ一度所謂梅毒ニ罹リ醫療ヲ加ヘタコトガアルダケデアル。トコロガ 1 昨年即チ昭和 5 年

32歳ノ秋頃カラ腦ノ具合ガ悪クナリ始メタ。12月ニハソレガ増劇シ言語舉動ニシバシバ常軌ヲ逸スル節ガアツタノデ、昭和5年12月、6年2月ノ2回ニ醫師ノ診察ヲ乞ウタ。診断ハイヅレモ強度ノ神經衰弱デアッタ。當時被鑑定人ハ兩回トモ僅カ1週間位ノ服藥ヲ續ケタニ過ギナイガ、ソノママ自宅デ靜養シテキルウチ漸次快方ニ向ヒ、昭和6年6月頃ニハ鹽田業ニ堪ヘ得ルヤウニナリ、ソレカラズツト今マデ外見上ニハ何ノ差障モナク働イテキタ譯デアル。

犯行事實

嘗テ腦ヲ患ヒタコトハアルガ、ソノ家庭ノ狀況トイヒ、内心ハトモカゴク内氣ナソノ資性トイヒ、誰デモ彼ヲ以テ環境ニ順應シタ普通人ト見做シテキタ間ニ、昭和6年12月5日突如トシテ彼ハ猛烈ナ兇行ニ出タ。事ノ次第ハ凡ソ次ノ如クデアル。

ソノ日彼ハ朝7時頃カラ例ノ通り鹽田ニ働キニ行キ、晝食後ノ休憩ヲ自家鹹水庫附近デトツタ。略ボ午後2時頃ノコトデアル。突然彼ハ唐鋸、金棒、たがねヲ持出シテ、隣ノK方ノ鹹水庫ニ至リ、ソコニ休ムデラツタK. K.ニ金棒ヲ、S. M.ニ唐鋸ヲウチツケタ。T. K.ガ驚イテ制止ニ來タノヲ見テ、直チニコレヲ追ウタガ及ブコトガ出來ズ、アキラメテ後ヲ振り向イタソノ刹那ニ、K. K.ノ夫デT. K. S. M.等ノ父ニ當ルI. K.ヲ認メタ。追跡シテ唐鋸デ斬リツケタ。ソコヘT. K.、K. M.ガ驅ケツケ「えぶり」デモツテI. K.ヲ護ル。S. M.ガ被鑑定人ト父トノ間ニ割ツテ這入ル。I. K.ハトウトウ唐鋸ヲ取上ゲルコトニ成功シタ。スルト被鑑定人ハ丁度手近ニアツタ金槌樣ノ器具ヲ擲ンデ、ナホモT. K.ニウチカカラウト試ミタガ力及バズ、トウトウM. O.等多勢ノモノニトリ押ヘラレテシマツタ。彼ノカクシテ與ヘタ創傷ハ、K. K.ノハ右拇指ニアツテ治療約1週間、S. M.ノハ前頭部治療約2週間、I. K.ノハ頭部、胸部、背部等ニ散在シ治療約3週間ヲ要

スル程度デアル。

兇行ハマコトニ晴天ノ霹靂デアツタ。人始メハ其ノ原因ヲ解スルニ苦シムダガ、後漸ク被鑑定人ノ告白ヲ辿ツテ、彼ガK一家ニ深ク銜ムトコロガアツタノヲ知ツタ。ガ、被害者側デハ被鑑定人トノ間ニ、何等重大ナ、少ナクトモ生命ニヨツテ清算サレナケレバナラヌ程ノ葛藤ヲ構ヘタ覺エハ更ニナイ。所謂怨恨ナルモノハ全ク一方的デアル。被鑑定人ヲ驅ツテコノ行動ヲ探ルニ至ラシメタ心理過程ニ就テハ、イヅレ後章デ詳述スルツモリデハアルガ、格別ノ成心ナクシテコノ事態ヲ觀ルモノカラスレバ、ドウシテモ被鑑定人ノ心神ノ健不ニ關シ一分ノ疑ヲ挿マザルヲ得ナクナツテ來ルト思フ。私ハ則チマヅ彼ノ身體ヲ檢シ、次ニソノ精神狀態ニ及バウ。

身體の検討

被鑑定人ハ身長160 cm、體重58 kg、筋骨ノ發達佳良ナル一漢子デアル。頭顱ハ前額部ヤヤ突出シ、前後徑ハ左右徑ヨリ常人ニ比シ大、即チ輕度ノ楔狀顱デアルガ、病的畸形トスルニハマダ遠イ。顔面ハ左右均齊、眼裂鼻口部ハ尋常デアル。呼吸、循環、消化器ニモ大シタ異狀ハ見當ラヌ。身體各部ノ筋、腱反射ヲ檢査シテモ、多少ノ亢進アル外左右同強デ、中樞末梢神經系ノ著シイ器質性徵候ハマヅ認メラレナイノデアル。猶ホ被鑑定人ハ私ニ向ツテ約10年前梅毒ニ罹患シタト申立テテキルノデ、念ノタメ腦脊髓液ノ檢査ヲ行ツタ。成績イヅレモ全ク陰性デ、腦脊髓液ノ存在ハ容易ニ拒否スルコトガ出來タ。

カウイフゴト一般の所見ダケカラスレバ、彼ハ全然一個ノ健人ニ外ナラヌヤウデアルガ、精細ナ檢査ヲ加ヘテ見ルト、決シテサウデハナイ。彼ハ實ニ昭和6年11月中旬頃カラアル一種ノ疾患ニ罹リ、シカモソレガ私ノ最後ノ診察日タル昭和7年5月25日ニ至ルマデ、ズツト引續イテ存在シテキルノデアル。

昭和7年4月16日彼ハ鑑定人ニ對シ語ツテ曰フ、

「ソノ事件ノ前20日程ノ間目ノサキハ夜寝テキルト何カジロジロ見エルノデス、目ノサキデアツチヘヨリコツチヘヨリ寝ラレンノデス、2,3日前ハ眼ガツブレ位ウツキヨツタ。物ガ2ツニ見エタリ、アツチヘヨリコツチヘヨリシテキタノデス。頭ノ方モヒコシイヤウデ、テツペンノ方ガ痛カツタ、ソレハ頭ノ痛イノハ14,5日モ前デ、眼ノ痛イノハ12月3日4日、獨リデ眠レンヤウニナツタ、別ニ原因トイツテ何チヤナイデス」ト。

被鑑定人ノコノ述陳ガ決シテ作爲ノ意圖カラ出タノデナイコトハ、ドウシテモ信ジテヤラナケレバナラスト思フ。全然醫學的素養ヲ持タナイ彼ガ、自ラ體驗シナイ限り、アル定型のナ病的現象ヲカクノ如ク鮮明ニ敘述スルコトハ、到底不可能ダカラデアル。今被鑑定人ノ言葉ノ内容ヲ姑ラク醫學上術語ニ翻譯シテミレバ、彼ハ別ニ認ムベキ原因ナシニ急ニ劇烈ナ頭痛眼痛ヲ發シ不眠ヲ來タシタ。眼華閃發ガ起リ

蛾ノ飛ビ交フヤウナ薄影ガシバシバ視野ヲ掠メルノミナラズ、ソノ上猶ホ複視ガアツタノデアル。

コノ證候群ノ原因トシテ考ヘラルベキモノ凡ソ3ツアルト思フ。眼カラ來ル綠内障カ、腦病ノ1デアル腦腫瘍カ、サウデナケレバ腦炎デアル。次デゴク簡單ニ鑑別診斷ニ關スル考察ヲ一筆描キ出シテオキタイ。

昭和7年5月25日檢診

1. 輕微ナル頭痛猶ホ存ス。頭内昏懵ノ感アリ。熱ナシ。
2. 視器検査。眼華閃發アリ。複視存在シ眼前62 cm 以内ニ於テ二重像ヲ見ル。監房ノ柱マタ折々2ツニ分レテ見エルト訴フ。眼球運動正常。視力左1.0 右1.0。すきあすこび一兩側共-0.5 D. 眼壓尋常右22 Hgmm 左22 Hgmm. 眼痛ナシ。眼底、靜脈ノ怒張ヲ見ル外著變ナシ。視野狹小、圖ニ示スガ如シ。

3. 脳脊髄液. 水様透明. 壓 210. Pandy 氏反應陽性. Nonne, Weichbrodt 反應陰性. 細胞 13/3.

コレカラ診断上ノ問題ヲ解カウ.

1. 緑内障. 眼球ガ飛ビ出スカト思ハレル程ノ非常ナ疼痛ト眼華閃發ノアツタコロカラ、一應マヅ緑内障ガ考ヘラレナケレバナラスガ、當時少シモ視力ノ減退ノナカツタコトガ第1ニコノ假定ニ反スル. 現在眼壓竝ニ視力ガ全ク正常ナコトモ亦緑内障ノ存在ヲ否定セシメル. 眼底像モ自ラ違フ.

2. 脳腫瘍. 大體ノ證狀ハ腦腫瘍ノ場合ニ非常ニ近イ. 脊髄液壓ノ亢進ハ特ニ注目ニ値スル點デアル. 眼底乳頭ニ顯著ナ變化ヲ缺クガ、コレハ腦腫瘍ニ必須ナ現象デハナイシ、複視ハ稀有デハアルガ必ズシモ絶無ナ徴候デハナイカラ、コレ等ノ所見ヲ基礎トシテ腫瘍ヲ排除スルコトハ出來ナイカモシレナイガ、腦炎ナル診斷ノヨリ割切ナルニ若カナイト思フ.

3. 腦炎. 脊髄液壓ノ増強眼底靜脈ノ怒張複視

等皆悉ク腦炎證候群ノ重要ナル一環ヲ成スモノデアル. ノミナラズ其ノ上、猶ホ視野ノ狹縮ト後章ノ記述ノ間カラ自ラ明カデアルヤウナ、一種特徴アル精神異常トガ發見サレル. 後者ノ如キ證候群ハ腫瘍デハマヅ絶無ニ近イ. 更ニ姑クコレヲ逆ノ方面カラ考ヘルト、腦脊髄液中ニ細胞増加ヲ證明シナイケレドモ、コレマタシバシバ見出サレル事例デ、腦炎ノ診斷ヲ覆ヘスニ足リル程有力ナ反證デハナイ.

ソコデ腦炎トシテノコノ發作ノ經過ヲ見ヨウ. 被鑑定人ノ陳述ヲ綜合スルト、昭和6年11月中旬ノ發病後約20日ヲ經タ事件ノ2, 3日前カラ病勢頓ニ増惡シ、頭痛強烈、コトニ眼ガ飛ビ出スカト思フ程ノ眼痛ガアリ、2, 3夜殆ド一睡モスルコトガ出來ナカツタ. 12月5日ノ事件後M警察署ニ拘致サレテカラハ、日ヲ追ウテ多少ノ輕減ヲ示シタラシイガ、大體ニ於テ猶ホ略ボ同様ノ狀態ニアリ、1月20日頃T市ニ移ッテ始メテ漸ク稍寛解ノ域ニ入ッタモノト考ヘラレル. 今日デハ疾患ノ性質上日ニヨツテ幾分ノ動搖ハ勿論アルデアラウ. 現ニ私ノ試ミタ診察ニ

際シテモ、精神證狀ハ後章ニ詳述スルツモリデアルカラ姑ク措クコトニスルガ、4月16日、5月11日ハ割ニ平靜デ頭重頭壓ノ感少ナク、腦脊髄液ハ壓210細胞數零デアツタガ、5月25日ニハ頭内昏憒著シク、腱反射ハ一般ニ太ダ高ク、腦脊髄液壓ハ前同様デアツタガ細胞數ハ13/3ヲ數ヘタ。ガ、シカシ概シテコレヲ云ヘバ、猛烈ナ頭痛眼痛ノ去ツタダケデモ、事件頃ノ狀態ニ比スレバ、少ナクモ身體方面ニ於テハ儘ニ佳良ダト見做シテヨイ。則チ病勢ハ12月5日ヲ中心トスル4、5日間ノ最頂期、コレニ接スル約4、5日位ノ亞強期ヲ經、目下下リ坂デアル。

腦炎ハトカク再發スル傾向ヲ持ツ。被鑑定人ノ場合デハ、敢テ深ク既往歴ヲタダスマデモナク、屢ニ記シタ如クゴク手近ニ、昭和5年秋カラ6年春ニカケ、所謂腦病ヲ患ヒタトイフ事實ガチヤント存在シテキルノデアル。當時彼ガ治ヲ乞フタ地方醫師ハ何レモ皆強度神經衰弱ナル診斷ヲ下シタサウデアルシ、頭部牽引頭内昏憒ノ感ハアツタガ猛烈ナ頭痛眼痛ヲ缺キ、タダ全身ノ違和ト身體各所コトニ季肋部邊ニ不快ナ疼痛ヲ覺エタノデアルカラ、一見或ハ今度ノ發作ト大ニ異ナルヤウニ思ハレルカモシレナイガ、ソノ頃ヤハリ現在ノ狀態ト性質ニ於テ全ク同一ナ精神症狀ガ確ニ存在シテラツタ。コノ點ハイツレ後文デ明カニスルデアラウ。腦炎ハ又往々ソノ初期ニ於テ、身體各部ノ感覺異常ヲ發スル。何等器質的基礎ノ發見サレナカッタ被鑑定人季肋部ノ疼痛ハ、コノ知見カラスレバ容易ニ説明ガツク。カウ考ヘテ來ルト、當時ノ疾患ガヤハリ腦炎ノ急性發作ダツタコトハ、今日カラ見テモ疑ヲ容レル餘地ハナイト思フ。タダ病勢ノ強度ニ至ツテハ、單ニ身體證狀ノ範圍ダケニ限ツテモ、一般ノ調子ト云ヒ、強烈ナ頭痛眼痛ノ缺如ト云ヒ、迄ニ今回ノ發作ニ劣ル。

被鑑定人ノ身體證候ハコレデ全ク明瞭ニナツタト思フノデ、見透シノツキ易イヤウニ、多少ノ反覆ヲ厭ヘズ、ゴク簡單ナ概括ヲ與ヘテオカウ。被鑑定人

ハ生來健康デアツタガ、彼ガ32歳ノ昭和5年秋頃カラ翌6年春頃ニ至ルマデノ間ニ、始メテ腦炎ニ罹リ一旦治癒シタガ、僅1年足ラズデ復再發シ、昭和6年11月中旬頃カラ、前回ニ比シ一層強烈ナ第2回發作ノ襲フトコロトナリ、目下猶ホ引キ續キ病中デアル。事件ハ恰モ疾患ノ極期ニ起ツタ。

本然ノ賦性

被鑑定人ノ精神ヲ正シク理解スルタメニハ、彼ノ天ニ享ケタ賦性ト、昭和5年秋腦炎罹患爾後ノ比較的急性ナ色彩トニ別ツテ觀察シナケレバナラヌ。前者ニ復自ラ精神能力性格ノ2方面ガアル。

學校成績ガ不良ダツタトイフ既往歴ト實驗心理學的討究ノ結果トハ極メテヨク一致スル。詳シイ説明ハ繁ヲ厭ウタメ省略シタイガ、大體ニ於テ注意、記憶、計算、判斷、精神作業能力等悉ク常人ニ劣ル。一般智識モゴク狹ク、タダ僅ニ自家日常生活ト直接交渉アル範圍内ニ限ラレテキル。久保氏法デすとニヨツテ測定シテミルト、精神年齡11歳ト出タ。精神能力ハ即チ健人ニ比シ30%弱イ。コノ成績ハカナリ概括的デハアルガ、被鑑定人叡智方面ノ狀態ヲ略ボ窺ハセテクレルと思フ。

性格ノ特徴トシテハマヅ固着性ヲ學ベグキデアラウ。被鑑定人ノ勤勉ハソノヨイ現レデアル。彼ハ薄弱ナ頭腦ノ持主デハアルガ決シテ怠惰デハナイ。年來營々トシテ鹽田稼業ニ努メテキルノデアル。第2ニ感ジテ發シ得ナイ氣分ヲ指摘シナケレバナラヌ。彼ガ私ニ告白シタコロニヨレバ、彼ハ薄給デ兄Dニ事ヘ、報イラルルコトノ非常ニ淺イノヲ兼々アマリヨク思ツテキナイサウデアルガ、マダ一度モ不平ヲ洩シハシナイ。否洩シ得ナイノダ。一事ガ萬事デアツテ、言葉モ從ツテ少ナイ。現ニ彼ハ犯行ノ2、3日前カラ全然不眠デ、眼ガ所謂飛ビ出ス程痛シダ。普通人ナラ當然打明ケテ攝養ヲ加フベキコロデアラウ。シカシ彼ハ默ツテキタ。妻Nハ豫審廷デ、「最

近ソノ話ノウチニ變ダト思ヘル點ハ少シモアリマセシテシタ。尤モ事件ノ前日ノ宵ニ8ガT子ノ髪ヲ剃リマシタガ、何時モキレイニ剃ルノニソノ時ニ限ツテ後ノ方ニ髪ノ毛ガ残ツテキマシタ、今カラ考ヘルトソノ時カラ氣ガ落チツカナカッタノデハナイカト思ハレマス」ト云ツテキルデハナイカ。彼女ハ當時ソノ夫ノ疾病ニチツトモ氣ガツカナカッタノデアル。寔ニ不思議ナ話デアル。私ハNガドンナ神經ノ持主デアルカ知ラナイガ、コノ際ソノ責任ノ全部ヲ彼女ノ不注意不敏感ニ歸スルニ先チ、彼ノ緘黙ガ如何ニ常人ノ程度ヲ超エタモノデアルカラ顧ミナケレバナラスト思フ。第3ニ、彼ハカウイフ風デ一見ゴクオトナシ内氣ナ人ノヤウダガ、ソノ裏ニハ怒ヲ衝ム性癖ガアル。所謂K一家ニ對スル怨恨ハ實ニソコカラ生レタ。私ハコレカラソノ心理的構成ニ對シ分析ヲ下サウ。

今聞ノ事件ノ被害者I. K. ノ一家ハ約6年前カラ、被鑑定人ノ兄Dト某鹽田會社ノ鹽田ヲ共同經營シテキルガ、K方ハF方ニ比シ産額年1萬斤程少ナイノデアル。K方デハコレヲ妬ミ、被鑑定人ガ彼ノ所謂「へらこいこと」ヲシテ鹹水ヲ盗用スルト諷刺スルノデ、常ニ竊カニ憤懣ニ堪ヘナカッタ。コレガ被鑑定人ノ言ヒ分デアル。ガ、K側デハ、第1自分ノ方ハF方ニ較ベテ人手ガ足りナイ。産額ノ少ナイノハ當然デアルシ、第2ニ鹽田ノ構造上鹹水ノ掠奪ナドハ到底出來ルモノデハナイ。從ツテソナコトハ想像ニモ及バヌ位ダカラ、無論云ツタ覺エハナイト頭カラ否定シテシマツテキル。ノミナラズ、被鑑定人自身モ亦鑑定人ニ對シ、自分ノ思ヒ過ギデアツタト漸次撤回ニ傾キツツアル。彼ノ主張ヲ裏ヅケル事實的背景ハ從ツテ太ダ稀薄デ、少クトモ人間ノ生命ヲ代償トシナケレバナラス程ノ深刻ナ根據ハドコニモナイノデアル。畢竟被鑑定人主觀上ノ詮議デアラウ。

デハソレガドンナ風ニ將又如何ナル程度ニ彼ノ主觀ニ體驗サレタカ。ソノ諷刺ハ明瞭ナ知覺トシテ印

刻サレタノデハ決シテナイ。言葉トシテ確カニ聞コエタコトハ一度モナイトイフ。即チ精神病學上所謂幻覺幻聽デハナクテ、1ツノ想念ニ過ギナイノデアル。私ハ彼ノ曖昧ナ言辭ヲ正シク理解セムガタメニ、カナリノ用意ヲ加ヘタツモリデアルガ、彼ハ私ノ問查ニ遇フ毎ニ、4,5年前K方ノ者ガ2,3人デ彼ノ前ヲ話シナガラ通ツタ。ソノ時ドウモ自分ノ惡口ヲ云ツタラシカッタトイヒ得タダケダツタ。ソレガ果シテ1回キリダツタカ、或ハ又2,3回ダツタカ、供述ニソノ都度多少ノ變更ガアツテ、遂ニ確ニツキトメルコトガ出來ナイデシマツタケレドモ、コレハ恐ラク彼自身トイヘドモ今日最早ヤ明カニシ難イトコロデアラウ。一體ノ印象ガカクノ如ク薄ク、基礎ガ太ダアヤシイ。コノ想念ニハ新事實ヲ吸收シ、旁證ヲ驅リ集メテ漸次地盤ヲ張ツテ行カウトスル形跡ガ全ク見當ラナイノデ、1ツノ妄想トイフニハマダ足ラナイ。オヨソ人間ニハ所謂 *Katathyme Deutung* ノ傾向ガアル。被鑑定人トKトハ同商賣ノ隣人デアルカラ、多少ノ競争意識ガシラズシラズ芽ダムノハ蓋シ免レザルトコロデアラウ。幾微ノ間ニ惡口ヲ云ツタト思ヒ思ハレル様ナ感情の解釋ヲ着ケル餘地ハ或ハアツタカモ知レナイ。ガ、モシゴク普通ノ人間ナラバ、イツモノ家常茶飯事トシテタダ幽カニ念頭ヲ掠メテ過ギル位ノ場合ヲ彼ハ深キ諷刺ト解シタ。彼ハシバシバ私ニ語ツテ、K側デハ盗用不能ノ理由ハ彼モ亦兼々領會シテキタトコロダツタトイッタ。ダカラ疑惑ヲ招クベキ筈ハナイト思フ代リニ、ソナ立派ナ反證ガアルニ拘ハラズ、猶ホコトサラニ自分ヲ誣ヒムトスルノデアルト曲解シタノデアルカラ、實ニ於テハ *Katathyme Deutung* デアルガ、度ニ於テ確カニ強イ。完全ナル妄想ニ比スレバ堅クナイ浮動シテキルガ、妄想ノ臭ハスル。即チ1ノ妄想の解釋デアル。

コノ猜察的傾向ハ曩ニ記シタ固着性特徴ト相倚ツテ偏執性性格ヲ作ル。コレニ積極性氣質ト消極性氣

質トガ區別サレト思フ。前者ハ著シク能動的デ、侵害サレタ權利ノ主張ニ對シ恐ロシク執拗ナ鬭爭ヲ續ケルモノデアリ、後者ハコレニ反シ受動的デ、最後ノ爆發ニ導カルマデコラエコラエトコマデモ深ク衝マウトスル。後者ニ復自ラ強弱ノ2型ガアルデアラウ。被鑑定人ハ今マデノ敘述カラ明白デアル通り、積極的氣質デハナクテ、消極陰忍性デアリ、シカモ寧ロソノ弱型ニ屬スルト思フ。妄想性解釋ハ4,5年ノ久シキニ亙ツタトイフクレドモ、コノ間、間斷ナクソレバカリ思ヒ續ケテキタ譯デハナイ。一應ノ問答デハ、イツモ癡ニ障ツテ仕方ガナカツタナドトイフコトモアルヤウダガ、或ハ表カラ或ハ裏カラ反覆質問シテ仔細ニ味ハツテ見ルト、彼ノ所謂憤懣ノ情ハ折ニフレテ念頭ニ上ル位デシカナイノデアアル。コトニソノ惡感情ノ内容ヲ訪ネルト、向フガ鹹水ヲ横取りシタト猜察シタノデハナイ、盗ムダト思ハレハシナイカ、思ツテキルダラウトイフノダカラ、ソコニ一毫ノ積極味モナイ。退キ退イタゴクゴク小心ナ受動的態度ニ過ギナイ。彼ノ性格ノ第2ノ特徴トシテ掲ゲタ、チツトモ進ンデ殺スルコトヲ能クシナイ弱性性質ハ、カクノ如ク深ク糾ヒ込マレテ、考慮判斷ノ内的造構マデモ規定セムトシツツアルノデアアル。彼ハ偏執性性格者デハアルガ、ソノウチデモ特色ノ一番淡イ消極陰忍型ノ最弱式ニ屬スルコトハ疑ヲ容レナイト思フ。

彼ハカウイフ稍病的色彩ヲ帶ビタ特殊ノ性格ト程度ノ精神低格ノ持主デアルバカリデ、昭和5年腦炎罹患爾前ニハ、顯著ナ進行性精神病ヲ思ハセルヤウナ證候ハ別ニナカツタラシク、今度ノ發作ガ漸ク下火ニナリツツアル現在ニ於テモ、烈シイ、例ヘバ早發性癡呆トイッタヤウナ精神異常ハドコニモ見出サレナイ。タダ以上ノ2様ノ狀態ガアルダケデアアル。デハコレヲノ原因ハ一體何デアラウ。性格ノ特質ノ方ハ、一般精神病學ノ知見カラ當然先天性デナケレバナラヌガ、精神低格ノ方ハ、性格ノ色彩ト或ハ同

様ナ或ハ多少異ツタ先天性素因ニ據ルカ、將又後天性幼年期ノ腦疾患ニ基クノデアルカ、決スベキ手ガカリガ最早ヤ存在シテキナイノデアアル。生活史ノ章デ記シテ置イタ如ク、被鑑定人ハカナリ濃厚ナ精神病ノ遺傳ヲ享ケテキルカラ、現在一見靜カナ先天ノ賦性ノ裏ニ、後來重篤ナ障礙ヲ示スデアラウ何等カノ精神異常ガ準備サレツツアル、若シクハソレガシラズシラズノ間ニ歩武ヲ進メツツアル、トイフヤウナ推測ヲ下サムトスル人ガアルカモ知レナイ。シカシナガラ、彼ノ家系ニ出タ數人ノ精神病者ノ疾患ノ性質ハ全ク不明デ、ソレガ果シテ遺傳的傾向ヲ孕ム種類ダツタカ否カ、第1解ラナイシ、ヨシソレガ明白ニサレタトコロデ、ソノ遺傳ハ後裔ノ人ガ悉ク罹ラナケレバナラヌトイフ程ニ強力デナケレバナラヌト限ラヌ以上、サキノ考察ハ穿ツタ點ハアルニハアルガ、結局纏マラヌ想像ニ過ギヌ。現在ヲ直視スル立場カラスレバ、被鑑定人ハダカラ特異ナ性格ヲモツ低格者ダトイフニトメナケレバナラヌ。

急性精神異變

コレカラ腦炎性精神異常ヲ説カウ。シカシ昭和5年秋ニ起ツタ第1回ノ發作ニ關スル資料ハ太ダ少ナイノデアアル。被鑑定人自身ハモハヤゴク微カニシカ當時ノ體驗ヲ追想出來ナイシ、神經衰弱ノ診斷ヲ下シタ醫師 Y. G. ハ M 豫審判事ニ對シ、普通人ト變ツテキタヤウダツタ、精神鑑定ヲ必要トスル程度ニ病狀ガ亢進シテキタトイフ調子ノ、極メテ概括的ナ判斷ヲ述ベテキルダケデ、少シモ具體的事實ニ觸レテキナイ。ソノ外ニハ調書ニ見エタ妻 N. Y. F. 2人ノ斷片的ナ證言ガアルニ過ギナイガ、彼等ノコノ素朴ナ陳述コソ、被鑑定人ノ貧シイ言葉ト相俟チ、却テヨク彼ノ精神狀態ヲ私ニ髣髴セシメテクレタ。

マヅ被鑑定人ノ體驗ヲ聞カウ。彼ハ M 豫審判事ニ對シテイフ、

「夜眠レズ、目ニ不思議ナモノガ見エルノデス。

目ニカカルモノガ變ニ見エルノデアリマス」。

目ニ不思議ナモノガ見エルトイフ、1部ハ確ニ身體的檢討ノ章デ記シタ眼華閃發デアラウ。1部ハ或ハ幻視ダツタカモシレナイ。ガ、目ニカカルモノガ變ニ見エルトイフトコロカラ考ヘレバ、視覺ソノモノニハ大シタ異常ガアツタトハ思ヘス。視覺内容ノ解釋ガ出來ニクナツタノデアル。日常遭遇スル感覺印象ノ意味ガ解ラナクナツタ來タノデアル。彼ハコレヲソノ儘心ノ内ニ藏シテキル譯ニ行カナクナツタ。質問ヲ發セズニハキラレヌ。コレガ周圍ノ人ニ Y. F ノ言ノ如ク「飛ンデモナイ事バカリボカボカ發作的ニ云フ」トモ、妻 N ノ陳述ノ如ク「時々妙ナコトヲ云フ」トモ取ラレタノデアル。例ヘバ彼ハ N ノ證言ニ見エル如ク、

「演ノ士手デ鬚ヲ生ヤシタ人ガ鋸ヲ自分ノ方ニ向ケテ通ツタガ、ソレハ自分ニ演ヲヨセトイフ意味ダトカ、演ノ方ヘ行ツタヲ藥クログ束ヲ逆サニシテアルノガ不思議ダトカ、S 町ノ「ポスト」ニ赤紙ガ貼ツテアルノガ不思議ダ」

ト怪シンダリ、又 Y. F ノ陳述ノ如ク、

「鹽田ノ通帳ノ裏ニ赤イ線ガ引イテアルノハドウイフ譯カ、誰ガシタノカ」

ト突梯ナ言葉ヲ放ツタリシテキタ。彼ノ當時ノ精神ハ一味ノ夢幻境ニ彷徨シテキタトイフテイイ。意識ハ半バ雲霧ニ被ハレタ如ク透明ヲ缺キ、輕度ノ濁濁若シクハ謔妄ダツタ。周圍ノ印象ノ領會ハ徹底セズ。歪ミ曲ゲラルル。解ツタヤウデ解ツテキナイ。精神ノ纏マリガ立タナクナリ、錯亂ガ起ツテ來ル。即チ一種ノ Amentia デアル。

今モシ假ニ精神病ヲ大別シテ内因性外因性ノ2トシ、前者ヲ個人本然ノ素質カラ湧キ出デタ自然的發展ト解シ、後者ヲ身體的疾患ニヨツテ偶然ニ誘發サレタ異常ダトスレバ、

Exogene Krankheitノ經過中ニ endogene Momenteノ擡頭ヲ見ルコトハ Bonhoeffer 以來人ノ注意ヲ惹イ

タ所デアルガ、被鑑定人ノ場合ニ於テ、私ハ1ノ好適例ヲ發見シ得タト思フ。被鑑定人ハ從來營々トシテ鹽田ノ勞役ニ服シテ來タ。ソノ間、多少心思ヲ勞シタノハ、弱型偏執性格タル爲人カラ發シタ K 方ニ對スル反撥感情ダケデアル。シカモソレガ決シテ恒存性デナク、時ニ機ニ觸レテ念頭ヲ變フ位デシカナカッタコトハ、既ニ前章デ明カニシタツモリデアルガ、彼ノ生活ニ於ケル唯一ノ關心事ハ畢竟タダコレダケデ、決シテソレ以外ニハナカッタノデアル。デ、今彼ガ M 豫審判事ニ語ツタトコロヲ聞クト、「ソノタメニ昨年(昭和5年)12月頃夜モ眠ラレヌ事が續イテ神經衰弱ノ様ニナツタコトガアリマス」トイフノデアルカラ、第1回發作ノ當時既ニコノ生活主題ノ擡頭ガアツタカノ如ク見ラルルカモ知レナイ。ガ、シカシ彼ハ私ノ詳密ナ問查ニ遇フ毎ニ必ズコレヲ否定シ去ラムトスルノ態度ヲ示シタ。ドウセ末節ノ話デアルカラ、真相ハドツチデモイイ。ヨシ假リニアツタトシタトコロデ、微弱ナモノデシカナカッタデアラウ。ソレガ非常ナ勢力ヲ占ムルニ至ツタノハ實ニ第2回ノ發作カラデアル。

ヤハリあめんちあ性デ、「事件ノ15日モ20日モ前カラ不思議ナコトガ目ニ入り」「草ヤ木ガオカシゲニ見え出シタ」第2回發作ハ實ニコノ點ガ特徴ナノデアル。彼ハ豫審廷デイフ、

「11月初頃私ガ釜屋ノ方ヘ行クト、同人 註.I. K)ノ炭納屋ノ入口ニ壺ダト云ハヌバカリ長サ5,6寸幅2,3寸深サ1,2寸ノ穴ヲ掘リ、ソレニ竹ヲ1本組ンデ傍ニ置キ、ソノ側ニ鹽田ヲ掘ルニ用フちようナガ置イテアツタノデ、私ハ K ガ私等ガ組ンデ向フノ鹹水ヲ盜ンダトイフ意味ヲアラハシタモノダト思ヒマシタ」。

I. K ハ穴ヲ掘ツタリ竹ヲ組ンダリシタ事實ハナイト否認シテキル。サウスレバ被鑑定人ニハ、幻視カ錯視カ、トニカク知覺錯誤ガアツタコトニナル。シカシコノ K ノ言ハ恐ラクハ、態ト計畫シタ覺エハナ

イトイフ程ノ心持ニ解スベキデ、被鑑定人ノ目ニ偶然觸レタヤウナ小點景ハ實際アツタノダラウト思フ。ガ、ソレガドツチダトシタコロデ、第1回發作ノ鬚ヲ生ヤシ鋸ヲ持ツタ人ノ話ト同様ニ、彼ノ認識ハトニカク夢幻性錯亂性デアッタ。ソシテソノ解釋ノ内面ニハ前回ニ見ラレナカッタ彼ノ肚裡ノ1物ノ色彩ガ濃ク泌ミ出シテキルノデアル。

コノ傾向ハ、M 豫審判事ニ對スル彼ノ陳述ニ、

「事件ヲ起ス15日モ20日前カラ、I. K ガヘラコイコトラ云ツタリ、T カI ガ皮肉ナ仕掛ヲ致シ居ツタタメ、又神經衰弱ニ罹リ、夜分モ午前2時スギマデ眠レズ」

又「事件ヲ惹起スル4、5日前カラ、I. K ガ何ヤラ又好カヌ様ナコトラ云フノデ、前ニ云ハレタコトラ思ヒ出シ、胸ガムシヤクシヤシテ眠レマセンドシタ」

トアリ、K. M ガ亦

「1週間前カラ濱ノコトラ考ヘテ夜モ寝トランノヂヤト S. F ガ申シテアリマシタ」

ト證言シテキルトコロカラ見ルト、漸次增強シツアツタコトハ確カデアル。シカシコレ等ノ言葉ヲ文字通りニ解シ、彼ハ終日終夜一瞬ノ怠モナク、コノ猜察感情ヲ抱キ續ケタトスルノハ、ドウモ事實ニ適シテキナイト思フ。私ハコノ點ヲ明カニシタイ爲ニ、出來ルダケ精シイ問查ヲ加ヘタツモリデアルガ、彼ノ曖昧ナ表現ノ要領ハ、イツモ「ヒドウ思ヒヨラナシタ」「事件ノ前ニハエラウ考ヘテミナカッタ」トイフ位ニシカ過ギナカッタ。結局、病日ヲ重ネルニ從ヒ、K 方ニ對スル惡感情ハ、平素ニ比シヨリ容易ニヨリ頻繁ニ念頭ニ浮ビ勝チニナツタトイフニ盡クルヲシイ。

K. M ハ豫審廷デ證言シテ「兇行ノ2日前カラ同人ハ何トナク氣ガ沈シタ様デ一向私ト話モセヌ様ニナツテ居リマシタ」ト云ヒ、妻Nモ亦「事件ノ前日ノ宵ニT 子ノ髪ヲ剃リマシタガ、何時モキレイニ剃

ルノニ、ソノ時ニ限ツテ後ノ方ニ髪ノ毛ガ残ツテ居リマシタ」ト語ツテキル。當時既ニ外カラ覗ヘバ覗ハレルダケノ精神異常ノ現ハレハ無論アツタノデアラウ。シカシ、一體あめんちあノ精神證狀ハ、コノ疾患ノ特徴デアルトコロノ、比較的輕マツタ、辻褄ノ合ツタ外觀ニ被ハレ、トカク素人目ニ入リニクイモノデアリ、彼ハマタ鬚ニ記シタ様ニ、妻ニサヘ默シテ語ラナカッタノデアルカラ、周圍ノ人々カラハ全ク注意サレズ、依然トシテ平生ノ彼トシテ通用シテキタノデアラウ。ソノウチニ、疾患ハ漸ク亢進シ、12月3日4日ノ2日間ニ亙ル不眠ヲ來タスヤウニナツタ。彼ノ私ニ語ツタトコロヲ綜合スルト、彼ハソノ頃夢幻錯亂ノ境ニアツテ、頭内朦朧斷片ノ思想ノ洶湧ガ著シク、經マツタ思考ハ殆ド不可能ノ狀態ニアツタ。ガ、例ノ不快猜察感ハ、恐ラク他ノ身體的精神的證狀ニ被ハレタタメデアラウ。却テ心頭ニ上ラナカッタ。12月5日ノ朝ハ、身體ノ違和頭腦ノ混亂益太ダシイノデ、餘程休マウカト思ツタサウデアルガ、7時頃ツイソノ儘デ仕事ニ出タ。ソノ時モ猶ホK 方ニ對スル惡感情ハ浮バナカッタ。午前10時頃釜屋ノ傍デ食事ヲ認メ、2日間ノ不眠デ疲レキツタ身體ヲソコニ横タヘ、覺エズ少時間ノ假睡ニ入ツタ。當時ヤハリ憤懣ノ念ハナカッタ。再ビ働イテ晝食ノ時間トナリ、午後2時頃復釜屋ノ附近ニ坐シテ休憩ヲツタ時、突如トシテ一種ノ激烈ナ精神亢奮ガ起リ、直チニ犯行トナツタ。コノ犯行ノ原因ハ豫審調書ニ從ヘバI. K ニ對スル怨恨ノ情デアアルガ、公判廷デハ彼ハ「知リマセン」「存ジマセンデシタ」ト云ヒ、恰モ當時ノ事情ヲ語ルヲ避ケルガ如キ態度ヲ示シテキル。コレ彼ガ自己ノ立場ヲ擁護セムガタメニ、意識的乃至半無意識的ニ、知ラザルヲ裝ハウトシタノデアルカ。カクノ如キ疑問ハ一應提起サレナケレバナラストコロデアル。シカシナガラ、犯行ノ直前ニ至ルマデ明瞭ナ形態ヲ具ヘテキナカッタ所謂怨恨ノ情ナルモノガ、別ニコレヲ激發セシムベキ

何等ノ外因ナクシテ、シカク急激ナ展開ヲ見得ルダラウカ。私ハ實ニココニ根本ノ問題ガアルト思フ。

私ハコノ邊ノ調査ニ當リ多少意ヲ用キタツモリデアル。今モシ被鑑定人ヲ、私ガ調査ノ始メニ試ミタヤウニ、専ラ豫審調書ノ記載ニ則リ、順序正シク追行シテ行ク時ハ、結句ソノ犯行ハKニ對スル反撥ノ情カラ出タコトニナツテシマウ。ダガ、私ハ暫クシテコノ方法ノ妥當デナイノヲ知ツタ。何トナレバ、彼ハ前章デ分析シタ如ク、内氣ナ性格ナ低格者デアル。多少ノ精神上ノ壓力ニヨツテ、被影響性ノ亢進ヲ誘發シ、正シカラザル屈伏ニ導クノ虞ガナイトモ云ヘナイカラデアル。寧ロ彼ヲシテ自由ニ語ラシメタ方ガヨイ。昭和7年5月12日彼ハイフ、

「事件ノ前ニモKト話シヨツタデス。事件ノ日ハ3日カ4日位デセウ。ソノ朝7時頃出タカナア。兄ノ子1人キタンデ2人デヤツタ。演デシテ、地場デシテ、釜屋デシテ、壺ノドツチカニ坐ツテ煙草吸ヒヨツタ。スルト地場ノ方カラ誰カ追ヒカケテ來ルヤウナ氣ガシテナア。警察デ捕ヘニ來ルヤウナ氣ガシタ。ソノ捕ヘニ來ル人ガ目ノ先ニジロジロシヨツテ、ソレハ12時スギデナア。ソレデ壺ノ中ニ入ツテアンナモノヲ持チ出シテヤツタ。Kハ壺ト釜屋トノ間ニラツタ。何モ云ツテハナカツタ。捕ヘラレルヤウナ氣ガシテコハクナツタ。ドウナツタカワカラシヤウニナツタデス」

コレハ疑モナク正シイ體驗ノ言葉デアル。決シテ虚構デハナイ。不透明ナ錯亂シタ意識ノ裡カラ漠然タル不安恐怖被害迫跡ノ感ガ、恰モ突風ノ如ク捲キ起フテ來タ有様ガ殆ド手ニトルヤウデアル。嘗テ精神病學上急性ばらのいゝト呼バレタ外因性急性精神障礙ノ定型的ナ1狀態デアル。

デハ所謂怨恨ハコノ際如何ナル役割ヲ演ジタノダラウカ。彼ハ或時ハK一家ニ對シ憤激ノ情ヲ感ジタト云ヒ、或時ハ感ジナイト云ヒ、或時ハ又感ジタ如

ク感ジナカツタ如キ縹渺タル表現ヲ用キル。ダガ、コレヲ以テ彼ガ要領ヲ捕捉サセナイタメノ技巧デアリ、用意デアルトシ、彼ノ誠實ニ疑ヲ挿マウトスルノハ太ダ過ギテルト思フ。彼ハ實ニ當時ノ心境ヲ如何ニ説明スベキカラ知ラナイノデアル。シカシナガラ、公平ナ精神證狀ノ觀察カラ云ヘバ、Kヘノ反撥感情ガ毫モ犯行ニ與ラナイト見ルノハ恐ラクハ正シクナイデアラウ。少ナクモ漠然タル追跡恐怖ノ念カラ起ツタ行動ノ爆發方面ヲ規定シ、ソレヲK方ニ燃デ向ケタダケノ力ハ確ニアツタ。モシ當時彼ノ腹中ニコノ一塊ガナカツタトシタラ、彼ハ襲撃ハ必ズシモI.Kノ頭上ニ降ラナケレバナラストハ極マルマイ。彼ニトツテ唯一ノ關心事タル不快憤懣ノ念ハ、纔ニ記シタ如ク第2回腦炎發作以來時々心中ニ湧起シツツアツタノダ。ソレガ被害感情ノ奔騰ニツレ、突如トシテ撞頭シタト考ヘルノハ、全體ノ精神機制ノ觀察上決シテ無理ナ推測デハナイ。タダシ、ダカラト云ツテ、ソレガ被鑑定人ニ明瞭ニ意識サレタトイフノデハナイ。彼ノ當時ノ精神狀態ハソレヲ許容スベクアマリニ無秩序デアリ、混亂シテキタ。漠然タル一般の恐怖、漠然タル特殊憎惡ハ交錯渾融シテ分ツベカラザル一體トナツテキタノデアル。精神病學上一般知見ニヨレバ、前者ガ主、後者ガ客、前者ノ素地ガナケレバ後者ノ高調ヲ見ルコトモ亦出來ナイ譯デアルガ、彼ハ到底カクノ如キ體驗ノ反省ニ堪ヘル人デハナイ。今日顧ミテ自ラ解スルコトガ出來ナイ。コレガコノ邊ニ關スル彼ノ陳述ヲシテ常ニ曖昧ナラシメル所以デアル。

不眠既ニ2日、腦炎ハ正ニソノ最頂期ニ位シタ時、コノ感動ノ昂騰ガ來タ。彼ノ困憊セル身體精神ハモハヤソノ重壓ニ堪ヘズ、直チニ苦悶ノハケロヲ求メ兇暴ナ行動トナツタ。ソコニハ毫モ反對抑制動機ノ發生ガナイ。心理學的ニハ一ノ衝動性行爲デアル。從ツテソノ目的ガ明瞭ニ意識サレル譯ハナイ。彼ニ果シテ殺意ガアツタカドウカ、調書記載ノ彼ノ陳述

ハ必ズシモ畫一デハナイノデアル。私ニ對シテハ、或時ハ何ノツモリデヤツタカワカラスト云ヒ、或時ハ殺ス氣ハナカツタ、一寸オドスツモリダツタト云ヒ、例ニヨツテ太ダハツキリシナイ。自分ニモヤハリ解ツテキナイノデアル。タダ豫審廷ニ於ケル某ノ證言ニヨレバ、彼ガ兇行ノオヨソ終リ頃、被鑑定人ヲ制止シタ時、被鑑定人ハ「放シテクレ皆殺シテヤル」ト絶叫シテキタトイフコトデアルガ、カクノ如キ瞬間ニ放タレタ一隻語ヲ捉ヘ、重大ナ意義ヲ附加セシムルノハヨロシクナイ。アラユル亢奮性行動ハ第二次ノ感情ノ昂揚ヲ喚ビ、シラズシラズノ間ニ誇張サレタ言語ノ表現トナルノハ、人間精神機制ノ弱所デ、誰デモ日常生活ノ記憶ニアルコトデアル。彼ノ行動ハ明白ナ目的意識ヲ有スルモノデハ決シテナイノデアル。

デハ犯行ニ移ツテカラノ彼ノ精神状態ハドウデアツタラウ。私ハコノ點ニ關シ數回ノ精細ナ問診ヲ試ミタガ、要ハ昭和7年5月12日ノ言ニ盡キル。前段引用ノ續キデアル。

「捕ヘラレルヤウナ氣ガシテコワカツタ。ドウナツタカ分ランヤウニナツタノデス、誰カテドヅク時ニハ知レヘンデシタ、女子2人ニ I. K. ヲヤツテキルコトニナツテキル、Kヲ叩イテキルコトハチラチラ知ツテキル、ドウ思ウテ行ツタカ知ランデス、M裁判所デ女2人 I. K. トイフコトハツキリワカリマシタ、止メタ人ハ皆デ名ハ知ランガ某ガ様ヲ握ツテユスブツタデス。兄

貴ガセンデモヨカラウト云ヒヨツタデス。」

大體ノ記憶ハアルト云ハナケレバナラヌ。彼ハ又私ノ間ニ對シ、持ち出シタ兇器ノ數種類ヲ語り、兇行ガ終ツテカラ、第8ト肩ヲ組ンデ、自家鹽田ノ釜屋ノ側ニ行キ、シバラク停立シ、ソレカラ某ニ伴ハレテ歸路ニ就イタ顛末ノ大體ヲ述ブルコトガ出來タ。記憶ノ完全ナ亡失デナイコトハ益明カデアル、シカシナガラ、コレカラ推測シテ、當時彼ノ意識ハ明瞭ダツタ、從ツテ病的デハナイトスルノハ非常ナ誤謬デアル。記憶ノ缺損ハ最高度デハナイト同時ニ、全然陰性デモナイ。彼ノ陳述ハ無論大體ハ正シイガ、イクラ仔細ニ問查ヲ加ヘテモ、大概今ノ引用語位ナ程度デ、ヨリ以上ニ詳細ニハナツテ行カナイノデアル。所謂概括ノナノデアル。ノミナラズ、一體あめんちあナル病型ハ意識明度ヲ徹底的ニ被フモノデハナイ。半濁輕濁ガ普通デアル。被鑑定人ノ状態ハマツ後者デアラウ。

犯行後彼ハマツS警察署ニ拘致サレ、後M市T市ヲ經テO市ニ移サレタ。S警察署ニアル2,3日ノ間ハマダ例ノ夢幻状態デ、夜中シバシバ人ノ攻メ寄せテクル感ガアリ、不眠ダツタ。物言ガスベテ高ク聞コエル傾ガアツテウルサカツタトイフ。T市ニ來テカラ病勢下リ坂トナツタコトハ疊ニ記シタ如クデアルガ、今日ニ於テモ、日ニヨツテ猶ホ證狀ニ多少ノ高低ガアル。最近病機再ビ亢進ノ徴ガ見エルラシイ。

第2例 被鑑定人 M. M.

閱 歴

見透シ易イ様ニ箇條書トシテ置ク。

1. 被鑑定人ハ明治31年6月25日K縣K郡O村亡父母ノ間ニ2男トシテ生レタ。

2. 亡父ハ明治34年1月9日47,8歳デ歿シ、當

時13歳ダツタ長兄後ヲ襲グ、母主トシテ家事ニ任ジタ。

3. 學業ハ小學校ヲ卒ヘ、T市商業學校3年デヤメタ。時ニ年16ダツタ。小學校時代ノ成績ハイイ方ダツタガ、商業學校ニ進ンデカラハ、覺エ込メバ

中々忘レナイ代リニ、了解甚ダ遅ク、少シ難カシイ
コトヲ考ヘルト頭ガ痛ミ、英語數學ナドハ到底同級
生一般ノ進歩ニ追從スルコトガ出來ナカツタ。ソノ
頃既ニ成年ニ達シテキタ長兄ハ寧ロ被鑑定人ノ學業
ノ繼續ヲ望ムダガ、本人ニソノ意志ナク廢學シタ。
ツマリ嫌ニナツテヨシタノデストハ被鑑定人ガ私ニ
語ツタトコロデアル。

4. 爾後長兄ノ家ニヲリ、T 驛ノ運輸係ヲ勤メテ
キタ。適齡トナツテZ 輜重大隊ニ入營、一等兵マデ
進ムダ。要領ガ悪ク、成績ハアマリ良好デナカツタ。
シバシバ上長カラ叱責ヲ蒙ツタ。ダガ、今日彼ハシ
カシ兵隊ハ面白イトコロデス、何モ心配ガアリマセ
ント云ヒ、往時ヲ追想スルヤウナ感慨ヲ顔ニ洩シテ
キル。

5. 除隊後1年程家ニキ、ソレカラ知人ノ傳手ヲ
求メテK市U電氣ニ勤務シタガ、電氣機械ガ恐ロシ
クテ手ヲ觸レルコトガ出來ナカツタノデ、僅カ10日
カ1週間デ逃ゲ出シテシマヒ、K市七條デ菓子屋ヲ
營ンデキル親戚ニ厄介ニナリ4、5月家事ヲ手傳ヒツ
ツアツタ。ソノ内大正11年2月10ニO府巡查ヲ拜
命シ、昭和5年3月カラ4月ニ亙ル約1箇月間病氣
歸郷シタ外ハ、昭和5年11月17日退職ニ至ルマデ、
約9年間ズットO市デ勤務シテキタ。

6. O市移住以後約1年妻Aヲ娶リ、長女A子次
女T子長男Sヲ擧ゲタ。長女A子ハ生後1年未滿ノ
時所謂腦膜炎ニ罹ツテ高度ノ白癡トナリ、言語ノ發
達全ク缺ケ、身體又虛弱、尿尿失禁ノ狀態ニ陥ツタ。
被鑑定人ハソノ頃カラ漸次舉動ニ常規ヲ逸スル節ガ
見エ初メタノデ、昭和5年3月郷里カラ來タ實弟M
及ビ巡查部長Hニ伴ハレテ一家同道歸郷シ、滞在約
1箇月後再ビ歸任シタガ、勤務ニ堪ヘズト認メラレ、
昭和5年11月17日退職實兄Kニ迎ヘラレテ郷里ニ
向ツタ。

7. 歸郷後退職賜金450圓ノ内カラ150圓出シテ
現在居住スルK縣K郡O村ノ家屋ヲ買ヒ、長兄カ

ラ名義書換コソ済ンデキナイガ、トニカク約1反程
ノ田ヲ貰ヒ受ケ、コレヲ耕作スル旁妻女ト共ニ麥稈
眞田ヲ副業トシテ一家ノ生計ヲ支ヘテキルガ、カナ
リノ節儉ニ拘ラズ、トカク足ラヌ勝チデ、退職賜金
ノ殘餘モ漸ク薄クナラムトシツアル。生活ノ展開
ヲ謀ルタメ、何か職ヲ求メヨウトシテ、時々T市ニ
出カケルガ、今日マデ何ノ得ルトコモノナカツタ。

8. 著シイ身體病ノ記憶ハナイ。淋疾ニハ罹ツタ
ガ、黴毒ハナイトイフ。煙草ハ少量、酒ハマツ1合
位、酒酔ハナイトノコトデアル。

身體證狀

1. 身體ノ發達佳良、胸腹臟器ハ健康デアル。尿、
血液像トモニ正常。血液骨髓液ノ「ワ」氏黴毒反應陰
性。タダ糞便中ニ蛔蟲、鞭蟲卵ヲ見ルダケデアル。
2. 神經學的検査ニヨレバ、震顫ト腱反射ノ一般
性亢進以外ニハ、瞳孔、眼底、聽器、知覺運動領域
ノドコモモ異常ガナイ。
3. 從ツテ一寸見ルト被鑑定人ハ略ボ健康人ノ域
内ニアルカノ如ク思ハレルガ、實ニ決シテサウデハ
ナイ。ソコニ2様ノ明瞭ナ病變ガ存在シテキルノデ
アル。

第1ハ圖ニ示ス様ナ視野ノ狹縮デアル。

第2ハ腦脊髄液ノ所見デアル。

第1回検査成績。(5月9日)

水様透明。壓180(臥位)。Pandy 反應陽性。
Nonne 第1反應陽性。Weichbrodt 反應弱陽
性。細胞數27/3。

第2回検査成績。(5月21日)

水様透明。壓190(臥位)。Pandy 反應強陽性。
Nonne 第1反應陰性。Weichbrodt 反應不明。
細胞數6/3。

第3回検査成績。(5月31日)

水様透明。壓260(臥位)。Pandy 反應弱陽性。
Nonne 第1反應陽性。Weichbrodt 反應陽性。
細胞數32/3。

コノ2ツノ證狀ノウチ、後ノ腦脊髄液ノ所見ガコトニ重要デアル。ソコデハ、(1) 検査成績ニ動搖ガアリ、毎常一様デナイコト。即チ第2回採取ノ脊髄液ハ壓ノ高イコトヲ外ニシテハ、殆ド尋常性狀ヲ呈

シテキルガ、第1回第2回ノ分ハ立派ニ病的ノ圈内ニアル。(2) 第1回第2回ノ病的デアル場合デモ、ソノ程度ガ非常ニ猛烈デヘナイ。

カウイフ特徴ヲモツ腦脊髄液ノ變化ヲ示ス疾患ハ

慢性脳炎ノ外ニハアリ得ナイ。通常原發證狀ガ頗ル幽微デ患者自身デサヘ何時罹患シタカラ知ラナイコトガシバシバアル。ソシテ経過ガ長ク、不定ナハツキリシナイ證狀ガ時ニハ數年ノ久シキニ亙ツテ續ク。

被鑑定人ハ何時カラ脳炎ヲ持ツテキルカ、今日明確ニ指スコトハ困難デアルガ、大約〇市移住後2,3年、長女△子生後1,2年頃カラデアラウト推測サレル。彼ノ語ルトコロニヨレバ、ソノ頃シバシバ頭痛複視ヲ伴ツタ不定ノ輕熱ガアリ、勤務中往々人聲、物音、「ラヂオ」ナドガ嵐ノ様ニ高ク響キ、街上ノ家並ガ或ハ至モ或ハ廻ツテ見エタコトガアル。ソノ持續ハ約5分カラ10分位デバツタリ止ム。非常ニ不思議ニハ感じタガ、アマリ氣ニカケズニキルウチニ漸次薄レテハ行ツタガ近頃デモ全クナクナツタ譯デハナイ。時ニハカナリ強イ日モアルト云フ。コノ言ハ慢性脳炎性感覺障礙ノ寔ニカガヤカシイ記載ト見做シテヨイト思フ。ソウスルト彼ノ慢性脳炎ハ當時カラ今日ニ至ル約9年ノ繼續ヲ持ツテキル譯デアル。

精神障礙

脳炎ノ精神證候ハ病機ノ動搖ニ從ヒ、自ラ恒存性及ビ發作性異常ノ2ニ大別サレル。恒存性異常ハ復分レテ感情、性格ノ上ニ及ボス影響ト専ラ睿智方面ノ能力減退トナル。被鑑定人ニ就テ姑クコノ3様ノ症狀ヲ検討シヨウ。

1. 被鑑定人ハ抑鬱型性格ノ持主デアル。彼ノ閱歴ハ明カニコノ干繋ヲ示シテキル。商業學校デハ一旦覺エレバナカナカ忘レナカッタガ、了解ハ緩慢ダツタ。兵營デモ要領ガ惡カッタ。學校ヲ自分ノ方カラ閉口シテシマヒ、電氣會社デハ電氣機械ヲ危惧シタ。コノ生活力ノ弱サハ腦炎ヲ病ムニ至ツテ、漸ク深酷トナツタ。彼ノ告白ニヨレバ、マツ第1ニ勤務ソノモノニ興味ガナクナツタ。往々夜ヲ徹シナケレバナラスタメ、睡眠ガ不十分ナノモ嫌デアツタシ、

又職務ノ性質上、トカク人生ノ葛藤ニ與ラザルヲ得ヌ、時ニハ訓戒叱責罵ヲ人ニ加ヘル様ナ場面ニ遭遇シ、ツクツク自分ノ性質ニ慥ハナイノヲ痛感シ出シタ。當時恰モ長女△子ガ生後僅カデ腦膜炎性白癱トナリ、ソノ看護ニ非常ニ心ヲ使ツタ。コトニ尿尿ノ失禁ニハ手ヲ焼イタ。襦袢ヲ洗ツタ汚水ハ附近ノ溝ニ流ス、ソレガ停滯シテ臭ヲ放ツ。衛生ヲ説ク巡查タル自分トシテハ周圍ノ居住者ニ心ヲ兼ねテ定住ヲ恥ヂ、不具ナルガ故ニ最愛ノ子デアツタ童女ノタメニシバシバ居ヲ移サナケレバナラナカッタ。ソシテソノ度毎ニ、折角呢ンダ隣人トノ別離ヲ悲シミ、時ニ涕淚シタトイフ。

彼ハ抑鬱者ノ特徴トシテ寡黙デ交際ニ拙ナ人デアアル。小學、商業學校時代ニモ友人ハナカッタラシイガ、巡查奉職ノ晩年ニ近ヅクニ從ヒ、同僚間ノ交遊ハ益稀トナツタ。郷里ニ歸ツテカラハ、近所ノ人々ト偶道デデモ遇ヘバ僅ニ寒暄ヲ叙ス位デ、氣ヲ貢ウタ威張ツタ人、近ヅキニクイ人物ト認メラレタラシイ。從ツテソノ鬱結シタ心ハ専ラ親シイ周圍ノ人ニ向ツテノミ放タレタ。氣ニ入ラナケレバ妻ヲ打ツタコトモアル。氣ノ合ハヌ長兄ノ家デハ、兄ニ拳ヲ加ヘヨウトシタリ、時々食卓ヲ引ツクリカヘシタリシタト云フ。彼ノ精神感情ノ負擔ガ漸クソノ心ヲ破リ始メタノデアル。

コレ等ノ精神ノ傾向ハ、昭和3年11月歸郷後一層亢進シタ。彼ハ家計ノ足ラナイヲ思ヒ惱ンダノミナラズ、或ハ兵營、〇市時代ノ比較的安易ダツタ過去ヲ徒ラニ追懷シタリ、或ハ何故幸福ナ人間ト不幸ナ人間トノ別ガアルカ考ヘタリシツツ、當面ノ勞働ニ從フ元氣ハ漸ク衰ヘタ。頭痛頭重トイツタ様ナ身體ノ違和ガ常ニ感ゼラレタ。耕作ノ主働者ハ寧ロソノ妻デアツタ。彼ハ時ニ妻カラ50錢内外ノ小遣錢ヲ乞ヒ、口ヲ搜スト稱シテT市ニ赴イタガ、タダブラブラ徘徊スルダケデ、何等積極ノ行動ニ出ズ、時ニ小遣ノ足ル範圍デ少シク酒ヲ被ツテ、空シク家路ニ

向フ。彼ノ目下ノ居宅ハ人家カラ離レテ孤立シテキルノデ、淋シイ氣ガシテソコニ眠ル心地ニナレズ、往々仲ノヨクナイ長兄ノ家ニ泊ツタ。ソノ悲哀、ソノ感情不堪ソノ生活意力ノ減退ノ狀、略ボ窺フコトガ出來ルノデアル。

私ノ推定ニヨル腦炎罹病期ハ丁度 A 子誕生ノ 1, 2 年後ニ當ル。從ツテコノ抑鬱傾向増惡ノ原因ノ 1 部ガ不具ナ子ノ扶育ニ心ヲ勞シタルニアルハ勿論デアラウ。Exogene Ursache ト Endogenes Moment ガ Circulus vitiosus ヲ作り渾融シテ一體トナツタ。A 子ノ事件ハコノ抑鬱性心境ノ對象タリ主題タルベキ、好餌デアツタトモ云ヘヨウ。

2. 被鑑定人ノ叡智能力ヲ實驗心理學の方法デ計測シテ見ルト、注意ハ頗ル惡イ。常人ガ 2 分半長クトモ 3 分デ間違ナク出來ル仕事ニ 4 分 43 秒カカツテ脱 8. 急ガセルト 2 分 42 秒デ終ルガ、脱 14 トナル。記憶力ハマヅ常人ノ半トイッテヨイデアラウ。類推、選擇等ノ判斷力ハ健康人ノ 60% カラ 70% ノ間ニ動搖スル。ノミナラズ反應ガスベテ非常ニ遅イ。コノ現象ハコトニ暗算ノ場合ニ著明デアツタ。例ヘバ次ノ通りデアル。

136 ÷ 6 = 22.....21 秒
 { 第 1 回 12 × 12 = 162.....23 秒
 第 2 回 12 × 12 = 144.....19 秒
 36 + 18 = 54..... 7 秒
 100 - 13 = 87.....15 秒
 { 第 1 回 91 - 18 = 63.....50 秒
 第 2 回 91 - 18 = 73.....23 秒
 11 × 12 + 18 = 150.....25 秒
 82 - 19 = 63.....23 秒

コレ等ノ問題ハ通常成人ナラ大概 4—5—6 秒位デ充分解ケルモノデアル。普通人トシテ發達シ、トニカク或程度ノ教養ヲ享ケタ被鑑定人トシテハ、アマリニ遅ク、アマリニ力ガ薄イ。精神能力ノ衰退ノアルノハ、タダ彼ノ主觀バカリデハナイ、客觀的ニ證

明シ得ル掩フベカラザル事實デアル。

3. 被鑑定人ニハ嘗テカナリ顯著ナ精神異常ヲ持ツテキタ既往歴ガアル。今昭和 7 年 4 月 7 日付 O 府 F 警察署長發 K 縣 T 警察署長宛文書ニヨレバ、

(a) 昭和 3 年 3 月ノ中頃ノコトデアル。O 府 I 警察署管内デ、同署詰巡查 2 人ガ泥酔ノ餘、自轉車店員某ト口論中、ソノ某ガ何者カノタメニ刺殺サレタノデ、巡查 2 人ハ一時容疑者トシテ取調ヲ受ケルニ至ツタ事件ガアル。新聞デコノ話ヲ讀ンダ被鑑定人ハ非常ニ亢奮シ、當時 Y 町派出所ニ勤務中ダツタノニ拘ラズ、午後 2 時頃本署ニ出頭シ外勤部長 F 警部補ニ向ヒ、エライコトガ出來タ非常ニ困ル、I 警察署長 S. K. H 駄目デカラ F 署長ニ轉勤シ、F 署長 M. M. H 本部詰トナツテ貰ヒタイトイッタ。慰撫シテ自宅ニ靜養サセテキタノニ拘ラズ午後 6 時頃外出シ、E 町 4 丁目派出所ニ至リ、次デ知事官房及ビ警察部長官舎ヲ訪ウタ。コレガ屬キニ閱歴ノ章デ記シタ昭和 3 年 3 月ノ常軌逸脱行爲ノノデアル。

(b) 約 1 箇月後郷里カラ歸ヘツテカラモ舉措異常ガアツタ。衆人環視ノ街上デ、官服ノ儘餅屋カラ餅ヲ買ヒ立食シタ。

(c) 派出所デ拔劍シテ劍劇ノ真似ヲシタコトモアル。

(d) 深夜人ノキナイ露路内デ警笛ヲ鳴ラシ交通整理ヲシテキタ。

被鑑定人ハイクラナンデモソソナ莫迦ナ真似ハシマセントイヒ、(d) ノ事實ハ全クコレヲ拒否シ、(c) ニ對シテハ、人ノキナイ時ニハ他ノ同僚デモクソソナコトヲシテ遊ブモノデストイヒ、(b) ハ晝食ノ代リニ他ノ人デモ餅ヲ食フ、私バカリヂヤナイ、口ニ入レタママデー寸位外ニ出タカモシレヌガ、何モ態ト變ナ様子ヲシタ譯デヤナイト稱シテキルノデ、コレ等ハ姑ク不問ニ附ストシテモ、(a) ノ事件ハ健

ニ精神異常ノ産物ダト認メナケレバナラスト思フ。

彼ガ私ニ對スル陳述ハ非常ニ曖昧デ、當時ノ事情ヲ明快ナラシメ難カツタガ、今日猶ホ大體ノ記憶ヲ持ツテキルノデアルカラ、彼ノ意識ハ全ク濁濁シテキタノデハナイ。ガ、ソノ記憶ハ畢竟大體の概括のデ細目ニ互レバ明カデナイトコロガ、意外ニ多イ。即チ意識ハマヅ輕濁ノ程度デアツタラシイ。ソシテ一見健康人ラシイ平常ノ生活ノ間カラ不意ニカクノ如キ亢奮ヲ發シ奇矯突梯ナ行爲ガ醸シ出サレタ。被鑑定人ノ妻ノ言ニ從ヘバ、被鑑定人ハオヨソソノ頃カラヨク關係ノナイコトヲボカボカ云ツタトイフ。彼ハ前々段デ記シタ如ク、當時爾來生活難、人生苦ノ思念ガ腦裡ヲ去ラナカツタ。從ツテモシコノ種ノ感慨ガ昏ヲ衝イテ出タトシタラ、家常勞働ニ營メトシテキル周圍ノ人ニトツテハ、毎日ノ生活ノ中ニ咏嘆ノ言葉ヲ投ゲ入レルコトソレ身體ガ、既ニ突梯トモ奇恠トモ思ハレタデアラウ。ダガ、彼ノ如ク濃ヤカニ感ズルモノカラスレバ寧ロ當然ノ事態デ、ツマリハ心境ノ相違デアラウ。ダガ、ソノ所謂ボカボカイフハ必ズシモ全部コノ説明ヲ以テ被ヒ盡シ難イ。一部ハ儘カニ了解判斷ノ錯誤ニ基カナケレバナラスト思フ。昭和3年3月ノ事件ハ偶ソノ大映シダツタニ過ギナイ。彼ノ病狀ハ即チ時ニ發作性ニ強調サレ、トカク日常ノ沈鬱狀態ノ外ニ逸脱セントスル傾向ヲカネテカラモツテキタノデアル。

現在ノ彼ニハコノ第3ノ發作證候ヲ全ク缺キ、タダ所謂恒存證候ヲ見ルバカリデアル。病室デハ平靜デ、了解判斷ニハ毫モ奇變ガナイガ、叡智能力ノ衰退ニ加フルニ、被ヒ難イ沈鬱悲哀ノ色ガアリ、或ハ縋メトシテ後來ノ生活ニ對スル懸念ヲ語ツタリ、或ハ話ガ此度ノ犯行ニ及ブ毎ニ涕泣シタリスル。ソノ感情ノ烈シサハ勿論認メラレルガ、ソレハタダ調子ガ一般ニ深タ、鋭過ニスグルトイフダケデ、人格アル人間ノ正シク同感シ得ルトコロデアル。コノ點カラスレバ彼ノ人格ノ中心ハチヤント統一サレテキ

ル。支離滅裂ノ述ハナイトイハナケレバナラスト。

犯行時ノ被鑑定人

昭和7年3月26日被鑑定人ハ妻ト共ニ田圃デ勞働シ、午後5時頃妻ニ別レテ一足先ニ家ニ歸ヘリ長女A子ヲ殺シタ。私ハコノ犯行ノ次第ヲ(1)妻ト一緒ニ田圃ニ居タ間、(2)ソノ歸途、(3)歸ヘツテカラ犯行マデ、(4)犯行直後カラ逮捕ニ至ルマデノ4ノ場面ニ別ツテ考ヘ度イ。

1. 第1場面デハ彼ハ妻Aト一緒ニキタ。私ハマヅ彼女ガ私ニ對スル陳述ニカカル犯行當日ノ彼ノ行動ヲ記サウ。

昭和7年3月26日、時計ガナイカラ時間ハ分ラナイガ、イツモヨリヤ遅ク起キタ。被鑑定人ハ妻ト一緒ニ麥稈ヲ編ンデキタガ、丁度ソノ時、兵士ガ凱旋シテ來テ、喇叭ノ音軍歌ノ聲ガ遠クデスル。被鑑定人ハ暫ク手ヲ止メテ聞キ惚レテキタ。ソレカラ食事ヲ終リ、長女A子ヲ殘シ、被鑑定人、妻、長男Bト3人デ田圃ニ行キ草拔キヲシタ。被鑑定人ハ一々暇ヲカケ莫迦ニ入念ニ抜イテキタガ、半分ホド済マシダ時、妻ノトコロニ走ツテ來、折柄向フノ街上ヲ凱旋兵士ヲ迎ヘテ歸ル人ガ大勢通ルノヲ見、「ウレシイ人ヤカナシイ人ヤ豆ヤカラシヤ世ノ中ハサツバリワカラシ」ト云ヒツツ、又草ヲ拔ク。妻ガ顔ガ惡イノジヤナイカ、豆ヤカラシトハ何カト問フト、エエト答ヘタキリデ、目ガ充血シ顔ガ赤ク瞻視定マラス。歸ヘレトイツテモ聞カナイノデ哇ニ休マセ置イタ。1時頃被鑑定人ハ隣ノ田デ働イテキタM某ガ食事ニ歸ヘルノヲ認メ、妻ニモ家ニ行ケ、早ク子供ニ飯ヲ食ベサセテヤレ、留守ニ子供ガ死ンデキタラドウスルト切リニ云ツタガ、妻ハソノママ仕事ヲ續ケ、2時頃ニナツテ、デハ歸ラウト誘フト、私ハ歸ラントイフ、一緒ニ行カウトイフテモ、イヤ歸ラン、子供ノ爲メニ飽迄草ヲ抜イテヤルト云ツテ頗ル頑強ダツタノデ、妻ハ獨リデ食事ヲ済マシ、再ビ田圃ニ戻

ツテ見ルト、草ハロクニ抜イテナイ。シカモソレガ太ダ逡デアツタ。丁度速レテ來タ次女T子ヲ見テ、ソレハドコノ子カト恠シムノデ、T子ダト教ヘテモ、A子カト聞キ、暫クシテカラ再ビ妻ノ所ニ走ツテ來テ、今來タノハドコノ子カト又訊ネル。T子ト答ヘルト、ハハハA子カ、A子ガ草ヲ拔クヤウニナツタカトイフ。ソシテ又草ヲ拔ク。ソノ様子ガ太ダ落着カズ、アチコチヤタラニ手ヲ下シ仕事ニ毫モ秩序ガナク、顔ガ猶ホ非常ニ赤イノデ、終ニSヲ貢ハセテ歸ラセタ。

今親シク被鑑定人ヲ問診シ、以上ノ妻ノ言ト對比シテ見ヨウ。

彼ハイフ、

「晝ガ來タノデ早ク歸ヘツテ御飯ヲ食ハシテヤレト云ヒマシタガ、歸ヘリマセン、若シ死ンデキテ大キナ問題ニナツタラドウスルト云ツタラ歸リマシタ」。

「人ガ澤山通ルノヲ見テ、何カハツキリ判リマセンデシタガ、笑ツテ通ル人話ヲシテ通ル人、人ノ惡口ヲ云ツテ通ル人、ドウシテアアナンダラウト可笑シクナリ、ドウモ世ノ中ガワカラント獨リ言ツイヒマシタ」。

「M某ガ隣デ働イテキタノハ知ツテキル」。

「T子ダT子ダトイフノデ、サウノヤウニモ思ツタシ、A子ノヤウデモアツタ。ヨク解ラン」。

「草ハアツチヲヌキ、コツチヲヌキシテキマシタ。人ハ草ヂヤ草ヂヤトイフガドウモ判リマセン。牛ト草トハドウイウ干繋ガアルカ考ヘテ見マシタ」。

コレ等ノ言葉カラ2ツノ事柄ガ推定サレト思フ。第1. 彼ハ現在猶ホ當時ノ自家ノ行動ニ關スル記憶ヲ少ナクトモ一部ハ持ツテキル。從ツテ彼ノ意識ガ完全ニ明朗デアツタカ否カハ姑ク云フコトガ出來ナイトシテモ、全然ソレガ瀟瀟シタモノデナクツタコトダケハトニカク確カデアル。第2. 妻ト彼ト

ノ言葉ガ大體符合シテキル。即チココニ記述サレタ彼ノ行動言辭ハ實際ニアツタ事實ナノデアル。

デ、コレヲ基礎トシテ當時ノ精神狀態ヲ分析スルト、マヅ全體ノ行動ノ上ニカナリニ濃イ亢奮ノ色彩ガアル。ソシテソノ原因ハ、彼ガ私ニ向ツテ、

「ソノ頃ドコカラトナク、攻メテ來ルヤウナ氣ガシタリ、日ガ沈ンデ電氣ガ消エテシマウノデハナイカト思ヒ、木ヤ草ヲ見ルト妙ニ様子ガ變ツテ來マス。電車道ヲ見タリ、人ガ色々ノコトヲ云ツタリスルト、何トナク世ノ中ガ違ツテキル様ニ思ヘタ」

ト云ヒ、「ソノ頃」トハ「3月26日バカリデハアリマセン、イツカラカハツキリ解リマセンガ、トニカクソノ少シ前カラデス」ト語ツタノカラ察スルト、彼ハ犯行日爾前カラソノ當日マデズツト引續イテ一種ノ發作性精神障礙ヲ持ツテキタノデアル。ソシテソノ内容ハ普通人間ノ感覺感情トハ殆ド質ヲ異ニスルカト思ハレル程背馳シタモノデ、嘗テ〇市時代ニ感ゼラレタトイフ家並ノ凹凸顛倒、躁音ノ擴大感ト甚ダ近イ。立派ナ腦炎性證狀デアル。カウイフ根本的障礙ノ下ニアツタ彼ノ精神ハ、ソノ行動ニ於テ、ソノ判斷ニ於テ自ラ辻褄ガ合ハナクナツテ來タラザルヲ得ヌ。草ヲ拔クニモアツチコツチト徒ラニ手ヲ着ケルバカリデ統一ガナイ、次女T子ヲ認識セズ、絶エズ長女A子ト誤ツタ、コレヲ精神病學上錯亂トイフ。彼ノ既往歴中ニ見エル昭和3年3月〇市ニ於ケル亢奮事件ト全く同一傾向ノ色彩ヲモツ。即チ彼ハ昭和7年3月26日ノ朝カラ犯行ノ少シ前ニ至ルマデハ慢性腦炎性精神發作ノ影響ノ下ニ立ツテキタノデアル。

2. 第2場面、即チ妻ト別レ長男Sヲ連レテ家路ニツイタ、ソノ途中ニ於ケル、又家ニ歸ツテカラノ彼ノ行動ニ就イテハ、私ハマダ參照スベキ豫審調書ヲ持ツテキナイノデ、第3者ノ證言ヲ引用スルコトガ出來ナイガ、彼自身ノ語ルトコロニヨレバ、彼ハ

走ツテ家ノ中ニ這入ツタ記憶ガアルサウデアル。何ノ故カト問フト、ドウモ自分デヨク分リマセンガ多分早クA子ニ飯ヲ食ハセナケレバナラスト思ツタノデセウトイフ、別ニソソナニ急グニモ及バヌトコロヲ馳ケ込シタトイフ點ニ於テ、犯行ノスグ前マデカナリ亢奮ガ持續サレテキタノガ解カル。

3. 家ニ歸ツテカラ、犯行ノ刹那ニ至ルマデノ彼ノ行動ハ、昭和7年4月9日T豫審判事訊問調書問49, 65, 66, 67, 71等ニ於テ、カナリ明瞭ニ語ラレテキル。私ニ對シテハ話ガソコニ觸レル度毎ニ、彼ハ始メハイツデモ嗚咽シテ、南ノ入口カラ家ニ這入ツタ、A子ハ4疊半ノ座敷ニ寝テキタ、顔ヲ見テキルウチニフツト殺ス氣ニナツタ、扼殺シテカラA子ノ身體ヲ奥ノ間ニ抱ヘテ行キソコニ置イタトダケシカ語ラナイガ、以上調書ノ記載ニ從ヒ條ヲ追ウテ質問スルト結局全部ノ肯定トナル。記憶ハ少ナクトモ大シテ脱落シテキナイ。

4. 犯行ガ終ツテカラ後ノ場面ヲ彼ハ語ツテイフ。彼ハ裏ノ戸ヲ明ケテ附近ノ田圃デ働イテキタS

某ヲ呼ソダ。當時彼ハA子ノ側ニ坐シ手ヲ握ツテキタ。Sノ報ニヨツテ近所ノ人ガ集マツテ來タ。M. K, M. I, M 某, K等ノ顔ヲ覺エテキル、人々ガ醫者ニ行ケトイフノデ、屍體ハソノ儘ニシ家ヲ出テK醫師方ニ到ツタガ、丁度留守ダツタノデ、空シク歸ラウトスル途中、駐在所巡査ニ同行ヲ求メラレタ。コノ段モ亦調書ノ記載ト一致シ、記憶比較の明瞭デア

ル。以上4ノ場面ヲ通ジテ次ノ如ク云ヘルト思フ。確カナ精神異常ノ證據ヲ擲ミ得ルノハタダ第1場面ダケデアルガ、第2場面ニモ亢奮ノアツタコトハ明カデアルカラ、カウイフ精神證狀ガソレニ直接スル第3第4ノ場面デ全ク消エ去ツタトハ考ヘテレス。犯行時ニ於テモ亦第1場面デ分析シタト略ボ同様ナ精神障礙ハアツタニ違ヒナイ。次ニ全場面ノドコデモ、コトニ犯行ノ刹那デモ大シタ意識ノ渾濁ハナカツタ。即チ彼ハ犯行當時腦炎性病變ノ重壓ノ下ニアツテ、カナリ猛烈ナ發作性精神障礙ヲ持ツテキタガ意識ハマダ全然渾濁ノ程度ニ達シナカツタ。

總 括

私ノ云ハント欲シタトコロハ既ニ實例ノ記載ノ内ニ盡キタ様デアルカラ、ココデハゴク簡單ナ概括ヲ與ヘルニトドメタイ。

1. 私ノ鑑定第1例ハ殺人未遂、第2例ハ殺人既遂デ、イヅレモ腦炎病者デアツタ。
2. ソノ精神證狀ハ多クノ他ノ場合ト均シクあめんちあ性ト云フベキデアル。
3. コノあめんちあ性障礙ノ奥ニ必ズ endogene Momente ノ存在ガアリ、犯行ノ動因ハソノトアル交渉ヲ持ツテキル、タダシ、第1例デハソノ關繫輕ク、第2例デハ太ダ重カツタ。前者ハ偏執者デ、後者ハ抑鬱者デアリガ、動因起源ノ交渉ヲコノ性格定型ノ差違ノ上ニ求ムルノハ恐ラクハ妥當デナイデアラウ。寧ロソハあめんちあ色彩ノ濃淡ニ由ルトスベキダラウト思フ、經過ノ短イ急性型ノ第1例デハ、精神證狀ノ重點ハ個人色調ニ貧シイ exogen ナ異常ノ上ニアリ、慢性ニ傾イタ第2例ハあめんちあ性障礙ノ下ニ壓セラレナガラ、未ダ猶ホ先天賦性ノ特色ヲ剩シテキル。einfühlen シ得ル一脈ノ人間ラシサハ即チ彼ニ於テ小、コレニ於テ大ダカラデア
4. 刑事上責任ハ從テ、精神ノ人間性活動ノ強ク制限サレタ第1例ニ多クノ割引ガアリ、人格機構ノ比較的良好ナ第2例ニ於テ重キヲ擔ハナケレバナラス。